



# ぶんりだより

東京文理学院高等部

令和六年度 第二号

発行日 令和六年七月十七日

## 八・九月行事予定

### 八月

一日

三年

模擬試験

(希望者)

五日～九日 学校閉庁日

十五日～二十一日

三年

三者面談

二十八日 学年集会

### 九月

四日

二年

進路説明会

十四日

公開授業日

十七日

公開授業日代休

十八日

体育(予定)

二十日・二十四日

前期試験

二十五日

試験休み

二十六日

試験返却日

二十七日

試験休み

三十日

前期終業式



## 三学年沖縄臨海教室作文

三年一組 小島 拓実

私は三泊四日の沖縄臨海教室でたくさんを経験できました。特に、二つのことを学ぶことができたことが、収穫だと思っています。

一つ目は、二日目の平和学習で戦争の悲惨さと平和の尊さについて学べたことです。平和祈念堂の語り部の方から、戦争で亡くなった方々の悲しいエピソードを聞きました。戦争は、大勢の人の命を奪い、生き残った人の希望までも奪うものだと感じました。私は後世に平和の尊さを伝え、戦争の無い世界になって欲しいと思いました。

二つ目は、集団行動の大切さです。昨年度のスクーリングでは遅刻したり、先生の話を聞き逃してしまう場面がありました。また、今年はクラスを進学クラスに異動したため、同じ班にあまり話をしたことがないクラスメイトもいたので、迷惑をかけないようにしなくてはと緊張していました。ただ、班の皆が規律を守っていて、臨機応変に動くことができたので、スムーズに旅行を楽しむことができました。今回の沖縄臨海教室はやるべきタス

学院長 小野塚 雅信

## 「社会に目を向ける夏に」

いよいよ関東地方も出梅が近付き、盛夏の到来を感じる時期になりました。東日本では年間降雨量の五分の一に匹敵する量の雨がこの時期に降ると言われ、農作物の成長には欠かせない恵みの雨になります。しかし、多くの人にとってこの梅雨の時期は、何日も降り注ぐ雨やどんよりとした天気、気持ちも消極的になり、天候や気圧の変化で体調を崩しやすい時期にもなります。

近年は、この梅雨の様子も大きく変化しているように感じます。長雨が降り注ぐ日は少なく、逆に気温が三十度後半まで上がり、梅雨が明けたかと思ふような快晴の日もあれば、また雨の日に逆戻り。長く生きている人ほど、この気候の変化に対し、異常気象という言葉を使いたくなります。

ただ、これだけ地球規模で環境の変化が起きている事を踏まえれば、日本の気候に変化が出るのも当然で、むしろ近年のような梅雨の在り方が今後の標準になるのかもしれない。過去と異なる出来事をついつい異常と捉えてしまいがちですが、今の時代の事象を素直に受け入れ、変える部分を変え、時代に必要な物を備える、そんな進取の精神がこれからの時代はますます大切になるでしょう。

この夏、皆さんにはぜひテレビやネットで様々なニュースを探して見て欲しいと思います。顕著な高温により山火事等の自然災害が多発している国や、未だ終わりの見えぬ悲惨な戦争がもう何年も続いている国があります。日本を見ても、物価高騰や深刻な人手不足の話題等は毎日尽きません。今自分が生活する国や、世界では何が起きているのか、広い知識を持つ事が変化の激しいこれからの時代を生き抜く上で、不可欠になるはず。明日から四十日以上に渡る夏休みが始まります。この三ヶ月を前向きに振り返りながらゆっくりと羽を伸ばし、楽しい夏の思い出も沢山残して欲しいと思います。そして同時に、学校生活がひと段落し、こころに余裕が出る時期だからこそ、社会に関心を持ち、視野を広げる時間も作って欲しいと願います。

保護者の皆様、皆様方の深いご理解とご協力のおかげで、今年度もここまで学院として順調に諸活動を進める事が出来ております。今後も一人ひとりの生徒の出来る事を増やし、自信に繋がる様々な機会を設けてまいりますので、引き続き、温かいご支援ご協力の程、よろしくお願い致します。

クが多く、大変な部分も結構ありました。この経験を、今後の学校生活や将来に活かしていきたいと思えます。



### 三年二組 渡辺 光稀

私はこの臨海教室を通して、沖縄の文化や歴史について学びました。初日は、美ら海水族館へ行きました。短時間ででしたが、多くの展示物を見ることができました。特に、世界でもトップクラスの大水槽ではマンタなどの様々な種類の魚はもちろん、全長八・八メートルのジンベエザメが泳いでおり、圧倒されました。

二日目は、ひめゆり資料館、平和祈念公園へ行きました。ひめゆり資料館では、沖縄戦で亡くなったひめゆりの学生たちが過酷な生活を送っており、戦争がいかに残酷かを学ぶことができました。特に印象に残ったのは、解散命令直後、

早朝に米軍のガス攻撃を受け、八十人あまりの人が亡くなったことです。平和祈念堂では、沖縄戦の写真や遺品などを見て、今の日本では想像もつかないようなことが起きていたこと、沖縄戦で大勢の人が亡くなったことなど、じわじわと伝わってくる感覚に襲われました。

三日目は、マリンスポーツをしました。行程で印象的だったのは、ドラゴンボートです。沖に出てからバランスを崩し、全員落水してしまいました。怖かったですが、良い思い出になりました。

沖縄は家族旅行でも行ったことがあり、好きな場所でした。今回の臨海教室で今まで知らなかった歴史を知ることができ、とても良い経験となりました。

### 三年三組 菊池 陸斗

私は六月十八日から二十一日まで、臨海教室で沖縄に行きました。天気予報が雨続きになっていたので天候が心配でした。また、遅刻しないか不安でしたが、集合時間に間に合っていました。

一日目は、飛行機に乗って沖縄に到着し、バスに乗ってすぐに美ら海水族館に行きました。美ら海水族館では大きな水槽があったり、見たことがない魚がいたりして、驚くことが多かったです。そこで、友達のお土産用にジンベエザメのキーホルダーを買いました。そこからホテルに行つてその日は終了しました。

二日目は、平和学習で、ひめゆりの塔や平和祈念資料館などに行きました。講話を聴いたり、いろいろな資料を見て、戦争の悲惨さを感じることができました。二度とこのような戦争が起きないで欲しいと思いました。

三日目はマリンスポーツをしました。行く前は雨を心配していましたが、晴れたので全ての種目ができました。シュノーケリングでは、カクレクマノミにエサをあげました。思ったよりも小さくて、とてもかわいかったです。ドラゴンボートはジェットコースターみたいでとても楽しかったです。そしてビーチフラッグでは、初めて砂浜を全力で走りまわりました。クラスメイトと競走しましたが、負けて悔しかったです。

四日目は、首里城に行きました。とても暑かったですが、様々な昔の門を見て、歴史を感じました。その後、飛行機で東京に帰りました。この四日間、初めての経験が多く、い

ろいろなことを知ることができました。これを今後の人生に大きく役立てていきたいと思えます。

### 三年四組 牧之瀬 優輝

六月十八日から六月二十一日まで、三泊四日で沖縄臨海教室に行きました。今回の臨海教室を通して、特に心に残ったことが二つあります。

一つ目は、二日目の平和学習です。ひめゆり平和祈念資料館では、実際の戦争の映像を見ました。当時の沖縄の人々の気持ちを考えると、とても胸が痛みました。ひめゆり資料館ではガマとひめゆり学徒隊の遺品が印象的で、鮮明に覚えています。平和祈念堂では、語り部の方の話を聞いて、戦争の悲惨さがひしひしと伝わってきました。特に、ひめゆり学徒隊の負傷兵の話は生々しく、再び、戦争が起ることのない平和な世界を望みます。

二つ目は、三日目のマリンスポーツです。カヤックでは力強いパトナーと協力して漕ぎ、スピードの限界にも挑戦しました。ドラゴンボートでは、体格の良いクラスメイトが後部に取り、振り落とされなにか心配でした。しかし、意外と安定感があり、無事に終えることができ、楽しい思い出となりました。

今回の臨海教室では、普段あまり話をする機会がなかったクラスメイトと寝食を共にして、距離が縮まって、嬉しかったです。また、四日目に行った首里城が来年の七月に完成予定なので、是非、また沖縄を訪れてみたいと思えます。



### 「自分らしく生きるということ」

辻 昂人

皆長い人生の中で、「自分らしく生きる」ということは、とても大切なことだと思えます。自分はどうしたいのか、突き詰めていく為に、「Have to」ではなく、「Want to」を考えてみてくださう。「Have to」とは「する必要がある」という意味であり、「Want to」とは「したい」という意味です。自分らしく生きるということは、自分のしたいことができる人生だと思います。

人は生きるために働きます。働くということは社会で生きるということ、人にはそれぞれの生き方があります。何を自分の強みにしてどう生きるか、仕事をしている人間にとって生き方はその人のスタイルそのもの。自分らしく生きるということを考える上で、どんな仕事をするかということも考えることも大切だと思います。

高校生活の3年間は長いようであつという間です。進学する人も、高校を卒業してすぐに働く人も、それぞれが自分自身のしたいことができる人生を歩めるように、この3年間という時間を大切にしてください。

